朝焼けへの道

2013年5月11日　No.5

編集・発行　鈴鹿市革新懇事務局　萩森 繁樹

〒513-0012 鈴鹿市石薬師町354　090-4269-0965

若者に触れる①

友人の教え子でアメリカ留学をしている青年のブログを紹介します。このAkitoくんの「勇気」と題する真摯な訴えが心を打ちます。

＝以下、ブログから抜粋＝

みんなが意見を持っているはずです。TPP、憲法改正、アベノミクス・・・日々情報の雨を浴びている我々は、少なからず意見があります。

それを、みんな言う権利があります。主張できます。なのになぜか我々はそれをしません。

「自分には関係がない」「間違っていたら困る」「恥ずかしい」「友達に何と思われるか・・」などなど。

言わない理由は探せばまだまだあるでしょう。しかし、本当にそれでいいのでしょうか？考えてみてください。

もう自分たちは大人になって、「関係ない」では済まされなくなってきました。

いま、自分たちのお父さん世代（40～60代）の人たちが決めていることが、これから我々に、我々の子ども達に降りかかってくでしょう。

それなのに関係ないと言えるでしょうか？

自分は、めちゃめちゃ関係があると思います。

～中略～

アメリカに来て、意見を言うことの大切さに気づきました。

授業や日常会話の中で、いまの社会についての話になります。

他国の留学生は自分を、「日本人とはこうなのか」という視点で見てくれます。

彼らにとって自分は、「日本代表」なわけです。だからこそ、その代表として意見を言う必要があります。

何も言わなければ、「こいつは何も考えてないんだな」「日本は裕福だから何も考えなくてもいいのか」そう思われてしまうのです。

大切なのは、意見を言えるかどうか。内容はその次です。「意見を言う」その姿勢が大切なのです。

～中略～

もう無関心ではいられません。意見を言おう。

いま、自分はそう思っています。

卯の花と信綱

加藤 正美

卯の花の盛り上がって咲くようすから、オカラを連想します。近くのお豆腐屋さんが「卯の花ドーナツ」を開発されました。

信綱の生地、石薬師では「卯の花の里」を標語に、軒先に白い花を咲かせ、東海道を歩く旅人を興するという街づくりをしています。信綱の歌碑が立つ「卯の花街道」もあり、老人ホーム「卯の花」もあり、「卯の花」の名を持つ団地だってあります。信綱作詞の「夏は来ぬ」は、ぼくが毎朝はげむテレビ体操の伴奏に使われています。

「清楚・かれん」と形容されますが、群れなしてどっと咲く姿に、ぼくは「たくましさ」を感じます。シーズンが終わると枯れたようになって、人を騙しもするのです。

天皇陛下万歳とさけびて猶息たえず　お母さんと呼びてうつむきしといふ

原爆とふ死の灰とふ嘆くべき詞消えざらんわが国語辞書に

地図ひろげゆびさして孫が詞はげし世界史の中のハンガリアの命

穏健派歌人信綱、満更でもないのですよ。

授業を削って学力テストの練習とは

4月24日、全国一斉学力テストが行なわれました。今回で7回目となりますが、都道府県別の平均点（地方によっては市町村別、酷いところでは学校別）が発表されることから、どこの県でも「点数引き上げ」に躍起です。

ある小学校は3学期に計3回、4月の本番と同じ時間割で過去3年の問題を解かせ、「得点を向上させるため」として、「難易度の低い問題から解く」などの指導をしています（福岡県の例、朝日新聞より）。四日市市では教育委員会の指示で、去年の問題を印刷して全員に配りました。鈴鹿市でも、過去問を授業中に一斉にやらせる学校が出てきています。他県では「朝学習の時間から学テの練習問題をすることになった」「テストの一週間前から教科書を使う授業はなくなりテスト練習だけになる」などの例が報告されています。

子どもの学力状況を把握することは悪いことではありません。しかし今のやり方では競争が激しくなり、正しい学力が測れません。テストで点数を上げることに汲々とし、子どもたちを追い立てていては、学校が息苦しくなります。

40年前にも同じような弊害が出て、学力テストは以後実施されませんでした。復活させたのは第一次安倍政権でした。教育をゆがめる学力テストは中止すべきです。

（吉田一男）

若者に触れる②

今日はYさんとホンダのS寮と会社の中間点、サークルKの信号でビラまきをしました。二交代で午後3時からの仕事に向かう「期間工」の若者たちにビラを手渡しながら話しかけます。

私は勝手に鬱々とした若者を想像していました。全然違います。多くは20代の青年の感じですが、中には40代に見える人、また結婚指輪の人もいます。

ビラの受取は駅前より数倍よく、人なつっこく話しかける私たちオジサン二人に、ある人は笑顔で、ある人は敬語で受け答えしてくれます。

もう2年目になるという沖縄出身のひげの青年の眼の優しさが印象に残りました。

また、ビラは「いらん」と言う青年に、信号を待ちながら話しかけていると信号が青になって歩き出すとき「ごくろうさん」と言ってくれました。なんか、ビクビクで始めたビラ配り。心がパアッと明るくなりました。

またしようと思わせてくれた今日の革新懇のビラまきでした。

（萩森繁樹）

いこいの家 麦

白子中学の北隣に「いこいの家・麦」という小さな喫茶店がある。といっても毎日開店していない。お店が開いているのは、月曜日と木曜日の午前10時～夕方4時までの時間だけだ。

なぜここで紹介するかというと、元々は、高齢者や障害を持つ方が気軽にお茶を飲んだり、食事できる場所を作りたいと思って始めたようだし、いまもボランティアの拠点として、鈴鹿市の情報をすべて網羅できればと考え運営されているからだ。

コーヒーや紅茶、手作りケーキが味わえる喫茶のスペースの他に、鈴鹿市内5つの障害者施設で作っている品物を展示販売しているコーナーやボランティアの情報を伝えるチラシなども置いてある。

ここで、毎月第1火曜日の午後1時から「語る会」が開催されている。平和について、原発について語る会だ。5月7日、初めて扉を開けた。小出実行委員会で一緒だった、なつかしい人もいて落ち着ける空間だ。7名ほどで、小出裕章さんの原発インタビューDVDなどを観て話し合った。本格コーヒーをいただいて参加費100円は安すぎだ。来月もまた来ようと思う。また何かが始まるかも知れない。

（橋詰圭一）

選挙制度とマスコミを考える学習会

五十嵐 仁さん

日 時 2013年5月19日(日)13:30開会

場 所 鈴鹿市文化会館 2階第1研修室